

地域で子供を育てる ～社会教育で子供たちに豊かな体験を～

<はじめに>

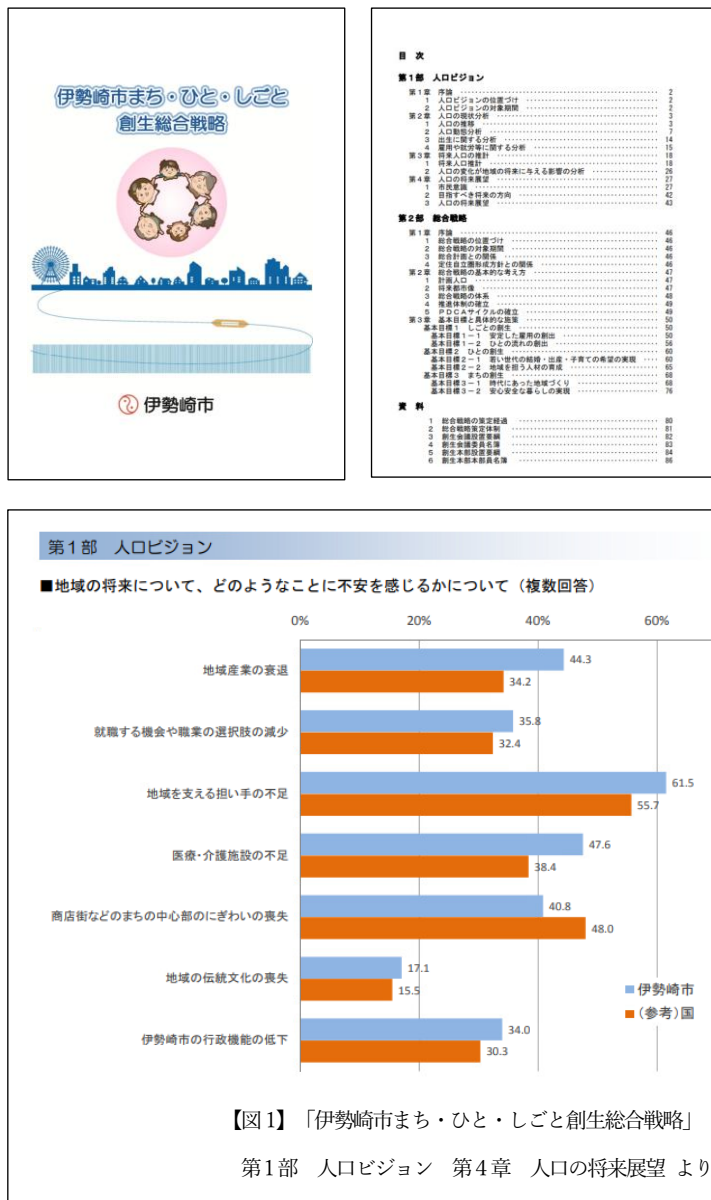
現在、地方の大きな課題として、人口が減り、自治体の存続自体が危ぶまれているということが挙げられます。この問題に対して、本市社会教育委員それぞれの地元においても、担い手不足や地域行事の継続が難しいことが話題になっていました。このことについては、伊勢崎市としても「伊勢崎市まち・ひと・しごと創生会議」という会議を開き、議論がなされてきました。

家庭や地域、学校が抱える問題が多様化し、それぞれが単独で解決に向かうのが大変になってきた昨今、将来地域の担い手となる子供たちを支えていく上で、社会教育の役割には期待が高まっています。伊勢崎市教育委員会においては、家庭や地域、学校それぞれが課題を抱える中、それぞれが連携・協働した取組により子供の健全育成を推進するため、令和6年の伊勢崎市教育行政方針の重点施策3「子供の徳育の充実」の中で、個別施策⑨「地域ぐるみの子供の育成」が挙げられており、「地域と学校が連携・協働した活動の充実に努める」としています。

そこで、伊勢崎市社会教育委員会議では、事務局から「社会教育で子供を育てるにはどんなことが必要か」を検討してほしいとの依頼を受け、「地域で子供を育てる」をテーマに話し合うことにしました。話し合いの中で、地域の子供を育てるといことは、地域を担う人材を育成することであり、そのためには、地域の中で子供たちに様々な経験をさせることが重要であると考えました。子供たちが、地域の中で様々な体験を積み上げていく中で、自己有用感を得たり、地域に愛着を持ったりすることで、将来、大人になったときに、自分が体験したことを次の世代につないでくれると考えたからです。

「小・中学生の子供を地域で育てる」ということに焦点を当て、今年度の社会教育委員会議で話し合ってきたことが、伊勢崎市の社会教育の一助となることを願います。

※この議論のまとめにおいて、「子供」とは主に小・中学生と定義する



1 地域において、子供の豊かな体験が必要不可欠

平成 30 年 12 月の中央教育審議会答申では、「今後、人口減少など社会の大きな変化の中であって、住民の主体的な参画による持続可能な社会づくり、地域づくりに向け社会教育はこれまで以上に役割を果たすことが期待されている」と記されています。

<伊勢崎市の今後の課題>

「伊勢崎市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の「第4章 人口の将来展望」(図1)によると、人口減少に関する調査の「地域の将来について、どのようなことに不安を感じるかについて」という項目で、「地域を支える担い手の不足」を選択した人が61.5%と一番多くなっており、伊勢崎市においても地域の担い手不足が大きな課題となっています。社会教育が果たす役割について重要性が叫ばれる中、この課題解決に向け、社会教育がどう関われるかを考える必要があります。

<地域の担い手を育てる上での課題>

担い手を育てるには、若者※1や現役世代※2がより多くの地域行事をはじめとする社会教育に参画してもらい、地域づくりに携わってもらう必要があります。地域づくりに携わるような人材を育てるためには、若い世代に地域のことを知ってもらい、地域への愛着心を持ってもらうことが重要だと考えますが、現状として地域づくりに携わるのは高齢者の方が多く、若い世代の参画をあまり見ることができません。活動の運営をする人たちの年齢層は高い状況があります。

※1「中学生～40歳未満」(こども家庭庁こども大綱より)

※2「20～60歳」(公的年金制度より)

小・中学生の豊かな体験が課題の解決に

子供たちが地域での体験の経験値を積み上げる＝意図的な子供の居場所づくりを

地域での活動を活発にするためには、次代を担う若い世代の活躍が必要になります。また、その活動に子供たちが参加することで、子供たちの地域での経験値を上げていくことも大切であると考えます。子供たちが地域の人々と関わり、関係を築き、たくさんの体験を経験として積み上げることで、地域の中で自己有用感を高めたり、地域への愛着心を育んだりすることができると考えます。このような成長を遂げた子供は、大人になって自分の経験を振り返り、地域で活動するようになるのではないのでしょうか。また、子供たちは高校からは地元である自分の暮らす地域から出ることも多くなることから、中学生までの間に、地元である「地域」で活動できる場をつくるのが大切だと考えます。小・中学生の子供たちにたくさんの体験をさせることが、担い手となる人材を育てることになり、地域づくりにつながっていきます。

あわせて、こういった地域での体験の場は「子供たちの居場所」となります。待機児童、不登校、ひきこもりなど様々な課題がある中、地域での活動は子供たちの居場所づくりにもなり得るということを意識して取り組む必要があります。

2 伊勢崎市の取組

○公民館等が実施する「こども向け講座」

本市では、公民館が子供たちのために「子どもクラブ」という学級講座を多数用意しています。学校の夏休みや冬休みなどを利用して、子供たちに様々な体験の場を提供する「こども向け講座」として実施しています。このような取組は、学校と地域が手を取り合って子供を育てていこうという大変良い取組であると考えます。どういう子供を育てていきたいのかという「育てたい子供像」を地域と学校が共有し、講座を企画・運営することで、地域と学校が協働し、子供の居場所をつくる取組として大変有効であると考えます。



夏休みこども絵画教室【赤堀公民館】

○中学生の社会参画

学校の夏休み期間等を利用して実施する「こども向け講座」においては、小学生の参加者に加えて、中学生がボランティアとして活動する場にもなっており、小学生のために、また地域のために役立っているといった、中学生が自己有用感を高める場にもなっているこの取組は評価できるものだと考えます。また、地域行事を含めた、地域での活動に、より多くの中学生が関われるようにと、事務局は公民館が「ボランティア証明書」を発行し、中学生に配布するという取組に反映させました。地域のためになっていることを見える形にすることで、中学生がより主体的に地域の活動に参加してくれるのではないかと期待できる取組です。



ボランティア参加証明書	
令和 年 月 日	
氏 名	伊勢崎 市子
学校名(学年)	〇〇中学校(〇年)
〇〇学務連携協議会 伊勢崎市〇〇公民館	
副 署 長 〇〇〇	
上記の者は、下記のとおりボランティアとして参加し、貢献したことを証します。	
1 事業名	
2 活動場所	
3 活動期間	
4 活動内容	

3 実態の把握（豊受小学校区のアナケートから）

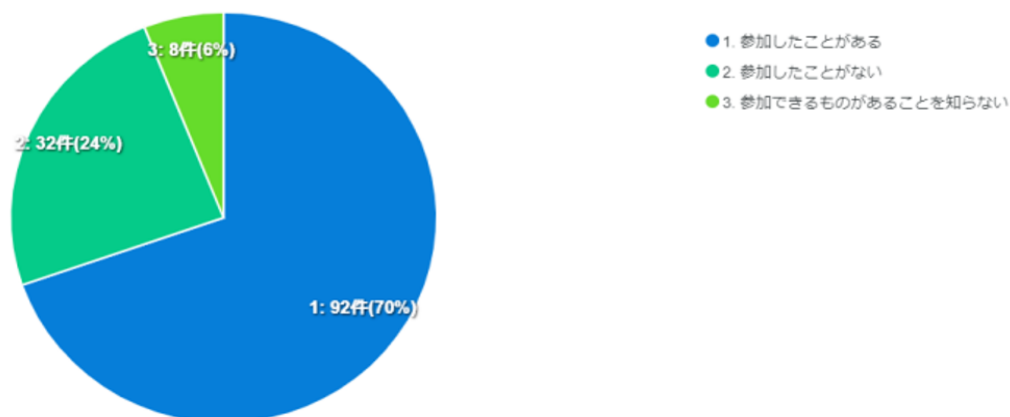
「地域で子供を育てる」ために、子供やその保護者が公民館事業や地域行事に参加してもらいたいと考えましたが、そのためにはどんなことが必要なのか、話し合う上で地域の実態を知ることが目的に、アンケートを実施することにしました。

市内全域でのアンケート実施と集計には時間を要することから、まずは地区を絞って考えてみることにしました。そこで、伊勢崎市の南に位置する「豊受地区」を対象に子供たちとその保護者にアンケートを実施しました。「豊受地区」を対象とした大きな理由は、来年度、新しい公民館ができるということ、また、その施設を使用して事業を展開する際に、少しでも地域の子供たちやその保護者のニーズに合った取組となるようなご意見をいただけたらと考えたからです。

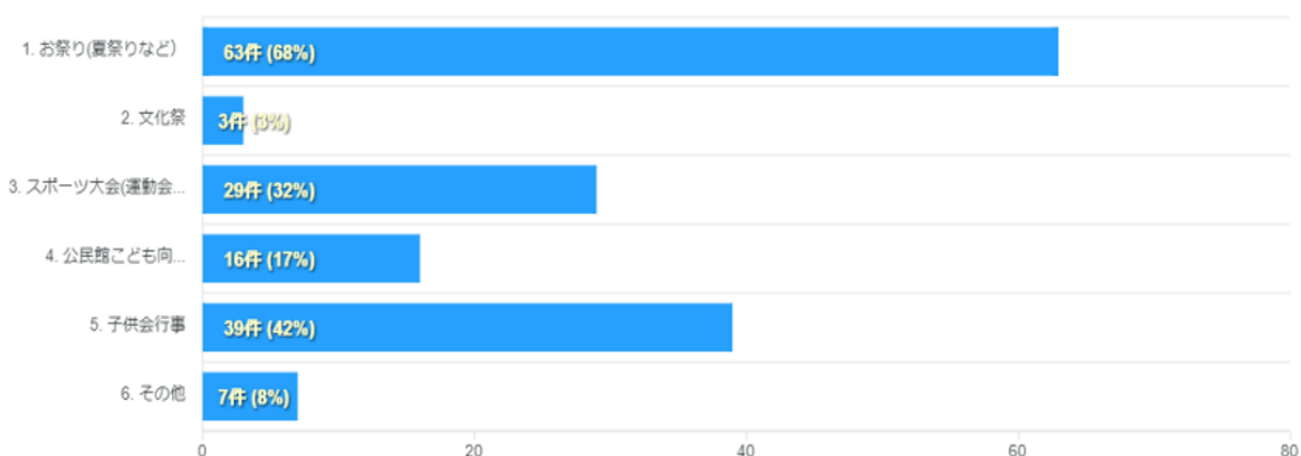


<アンケート結果①> 豊受小学校5・6年児童 132名

小学生になってから今までに地域行事(地域のイベント)や公民館の講座に参加したことがありますか。



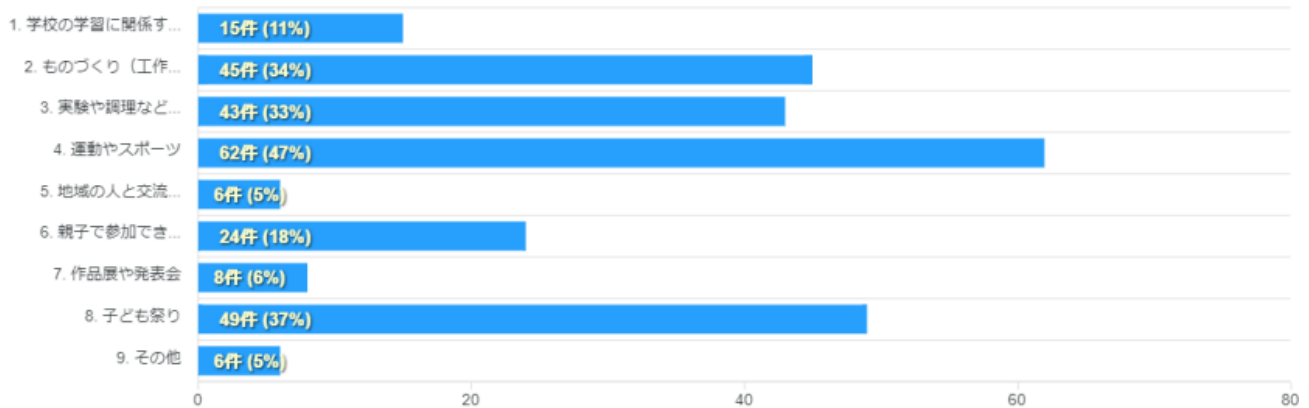
参加したことがある地域行事(地域のイベント)や公民館の講座を教えてください。



<その他の回答> ・ゴミ拾い(2件) ・ゴミ回収 ・草むしり(2件) ・水やり⇐
 ・地区体育祭(2件) ・七夕祭り ・クリスマス会 ・町内を回ってお金を集める⇐

地域行事(地域イベント)に参加したことがある児童が全体の70%でした(92件)。参加した行事では、「1. お祭り(夏祭りなど)」63件(68%)で最も多く、次が「5. 子供会行事」が39件(42%)でした。「4. 公民館のこども向け講座」への参加は16件(17%)でした。豊受公民館では、今年度の夏休みに10講座を開講していることを考えると、参加が少ない状況であるといえます。また、「2. 文化祭」への参加は最も低く、3件(3%)でした。

どのような地域行事(地域のイベント)や公民館講座があったら参加したいですか。

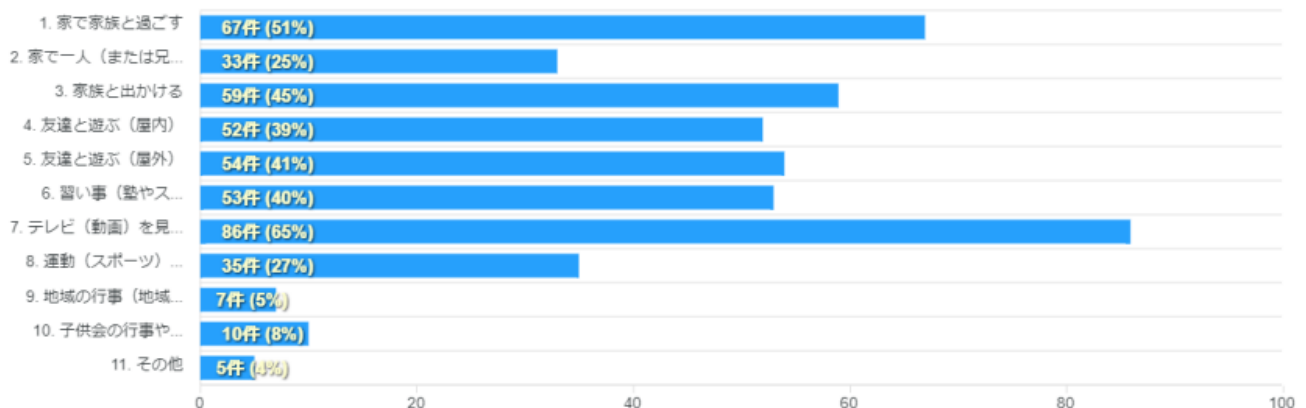


<その他の回答> ・花火大会 ・ゴミ拾い ・祭り ・参加したくない(3件)

「4. 運動やスポーツ」62件(47%)が最も多く、他に「2. ものづくり(工作など)」45件(34%)、「3. 実験や調理などの体験ができるもの」43件(33%)が多くなっていることから、子供たちは、体を動かしたり、体験的な活動をしたりを求めていることがわかります。

また、「8. 子ども祭り」49件(37%)や「6. 親子で参加できる活動」24件(18%)など、親子で参加したり参加者として楽しんだりできる行事(イベント)を求める声も比較的多くなっています。

放課後や休日にどのように過ごすことが多いですか。(夏休みなど長い休みも含む)



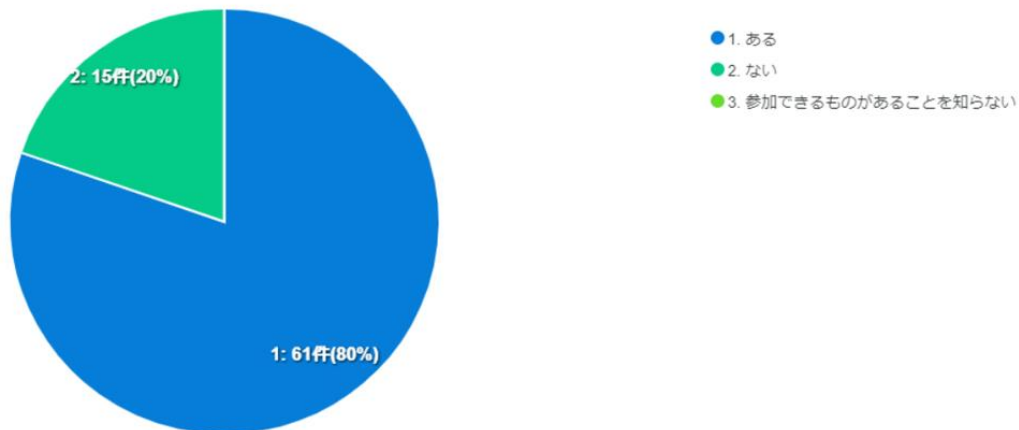
<その他の回答> ・ゴルフの練習(2件) ・学童(2件) ・ランニング ・図書館 ・自習

「7. テレビ(動画)を見たりゲームをしたりして過ごす(YouTubeを含む)」86件(65%)が最も多く、次に「家で家族と過ごす」67件(51%)となっており、家の中で過ごすことが多い傾向にあります。

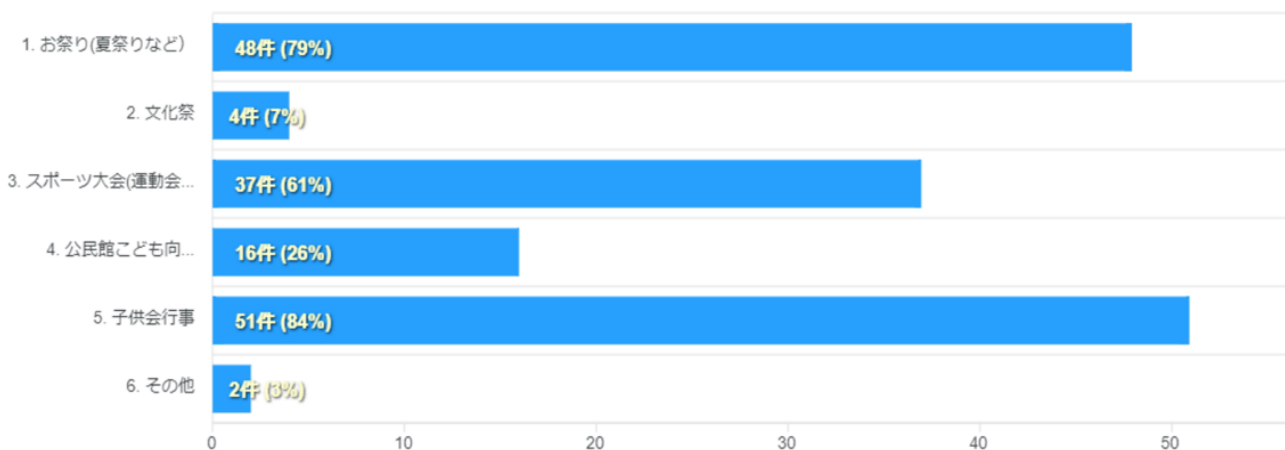
また、「6. 習い事(塾やスポーツ含む)に行っている」53件(40%)も比較的多く、放課後や休日に予定があり、他のことができない子供も多いことがわかります。

<アンケート結果②> 5・6年保護者 76名 が回答

お子さんが小学生になってから、地域行事(地域のイベント) や公民館の講座に参加させたことがありますか。



参加させたことがある地域行事(地域のイベント) や公民館の講座を教えてください。



←

<その他の回答> ←

- ・近所の方々と交流するふれあいサロンというのが、毎月第1土曜日に開催されてるので、参加させてます。
- ・親子デイキャンプ←

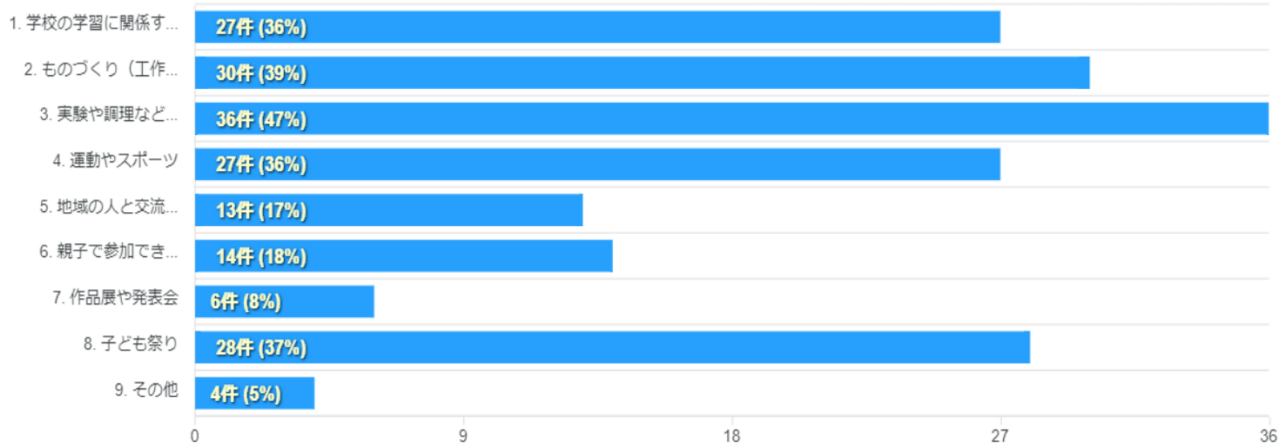
地域行事(地域イベント)に参加させたことがある家庭が全体の80%(61件)ありました。

参加させた行事では、「5. 子供会行事」が51件(84%)で最も多く、次が「1. お祭り(夏祭りなど)」で48件(79%)でした。

「4. 公民館のこども向け講座」への参加は16件(26%)でした。豊受公民館では、今年度の夏休みに10講座を開講していることを考えると、参加が少ない状況であるといえます。

また、「2. 文化祭」への参加は最も低く、4件(7%)でした。

どのような地域行事(地域のイベント)や公民館講座があったら、お子さんを参加させたいですか。



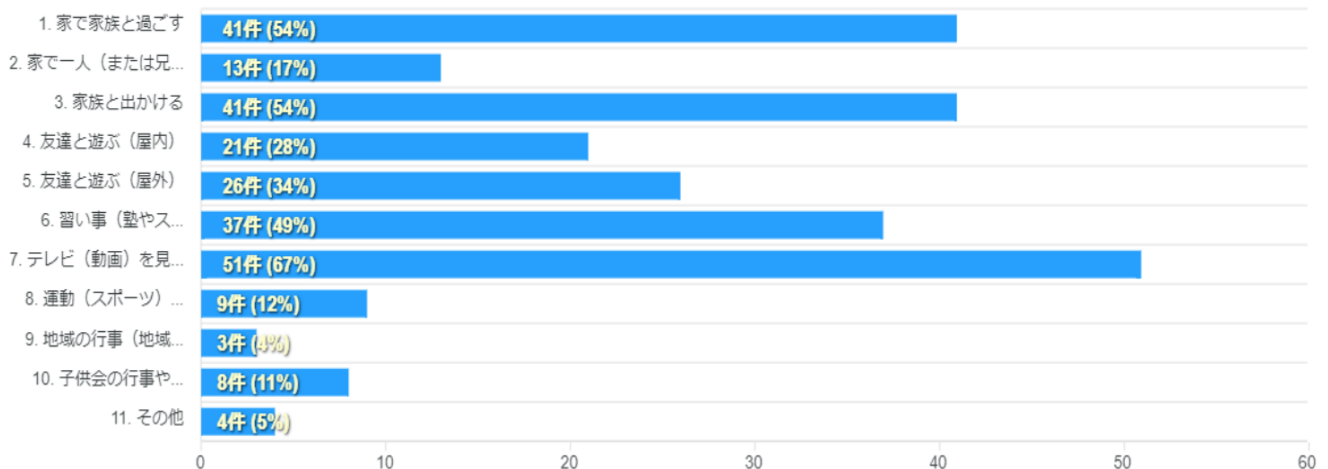
<その他の回答>

- ・プロによる催し、講演会など
- ・参加させたくないです
- ・子供が参加に消極的なので、特にない
- ・どの行事でも、参加は難しいです (親の仕事の都合、忙しいので送迎できない)

「3. 実験や調理などの体験ができるもの」が 36 件 (47%) で最も多く、他に「2. ものづくり (工作など)」30 件 (39%)、「1. 学校の学習に関係するもの (宿題なども含む)」27 件 (36%)、「4. 運動やスポーツ」27 件 (36%) が多くなっていることから、保護者が子供たちに学校での学習に関わる活動や日常ではなかなかできない体験的な活動に参加してほしいと考えていることがわかります。

また、「8. 子ども祭り」28 件 (37%) や「6. 親子で参加できる活動」14 件 (18%)、「5. 地域の人と交流のできる活動」13 件 (17%) など、地域の人や親子の交流できる活動を求める声も比較的多くなっています。

お子さんは、放課後や休日にどのように過ごすことが多いですか。(夏休みなど長い休みも含む)



<その他の回答>

- ・祖母の家に行って祖母の手伝いをします
- ・学童
- ・放課後デイサービス
- ・学童ないし祖父母の家

「7. テレビ（動画）を見たりゲームをしたりして過ごす（YouTubeを含む）」51件（67%）が最も多く、家の中で過ごすことが多い傾向にあります。

また、「6. 習い事（塾やスポーツ含む）に行っている」37件（49%）も多く、放課後や休日に予定があり、他のことができない子供も多いことがわかります。

4 アンケートから見えてきたこと

アンケートの結果から、課題を以下の3つにまとめました。

○子供たちが「参加したい」保護者が「参加させたい」と思う魅力ある体験を準備する

子供たちは、体を動かしたり、実際のモノ・コト・ヒトと触れる体験をしたりすることを求め、保護者は学校での学習に関わる活動や日常ではなかなかできない体験を求めていることがわかりました。そのような実態を踏まえ、子供たちの目をいかに外に向けるか、地域での行事や活動が子供たちにとって魅力的なものになっているのかを改めて振り返ったり、子供たちの参加、不参加を左右する保護者をどう巻き込んでいくかを考えたりすることは、子供たちの参加できる活動や居場所をつくっていく上で必要なことではないかと考えます。

○事業の周知方法の工夫を検討する

少数ながら、行事や「こども向け講座」などの参加できる場があることを知らないという回答もあったことから、事業についての周知の方法が不十分であるといえます。

どの家庭も放課後や休日に、インターネットを利用してゲームや動画視聴をしているのが現状であることを考えると、子供や保護者に参加してもらいたい事業の周知の方法については、これまでの紙ベースのお便り主体ではなく、講座や行事の内容がよくわかるよう、例えばSNSなどを活用したり、広告動画を作成したりするといった工夫も必要ではないかと考えます。

○既存の地域行事を子供と地域とをつなぐ場として活用する

地域行事の中で、文化祭への子供たちやその保護者の参加が非常に少なくなっています。文化祭は、公民館サークルの発表の場となっており、芸能発表や作品展示などが行われ、多くの地元住民が参加する行事です。子供たちの参加が多くなれば、地域と子供たちがつながる場になります。そこで、作品展示という形で小・中学生の作品が多く展示されれば、それを見るために訪れる親子も多くなるのではないかと考えます。子供の作品が地域の方の目に触れ、そこから交流が生まれることも考えられます。学校の先生や親以外の大人から頑張りを認められたり褒められたりすることは子供たちの自己有用感を高めます。子供が参加することで、大人も参加するという相乗効果があると考えられることから、発表会は難しくても、作品展示という形で子供たちが参加することができるよう、地域や公民館が学校とより連携を深めていくことが必要であると考えます。

アンケート結果を
今後活かす

＜子供たちを育てる（居場所となる）事業を実施するために＞

- 保護者も必要と感じる、子供たちが「やりたい」と思う魅力ある体験にする
- 事業の周知方法について工夫する
- 既存の地域行事を、子供やその保護者がより参加しやすい場にする

5 まとめ

本市では公民館が主体となり、地域と学校が連携・協働した取組も多くなされています。なかでも、夏休み中には、公民館等の「こども向け講座」が多数計画され、長期休業中の子供たちが多様な体験をする場が用意されており、地域に根差した教育の推進が図られており、社会教育が子供たちの豊かな経験や居場所づくりの役割を果たしています。

しかし、今回の検討から見てきたことは、社会教育の場は準備しているものの、子供のいる家庭が、たくさんの習い事やゲーム、動画の視聴などに時間を費やす現実の中、体験の場に参加できなかったり、その体験の場があるという情報を受け取れなかったりすることがあるということです。あわせて、地域の中にある体験の場に子供が参加するかどうかは保護者の考え方によるところも大きな要因となっていることがわかります。本市の取組としては、公民館講座等をはじめ、地域の中で子供の居場所づくりが進んでいますが、今後、社会教育での事業を計画する際には、子供が体験によってどんなことを得られるのか、参加する子供やその保護者に、そこで体験することが有意義なものであることを、より伝えられるような工夫が必要なのではないでしょうか。

放課後や休日に、家の中で一人、または子供だけで過ごしたりゲームや動画を見て過ごしていたりする子供が多い現状で、子供たちをいかに外に出すか、子供たちにとってどんなことを経験させる必要があるかを考え、子供たちの参加できる活動や居場所づくりをさらに形にしていってほしいと考えます。

まとめとして、地域で子供を育てるために、必要だと考えることを3つ挙げます。

まずは、地域の中での体験が、子供たちにとって魅力あるものでなくてはなりません。アンケートからもわかるように、これは同時に、保護者にとっても子供に体験させたいと思う内容である必要があります。

次に、地域と子供、保護者をつなげる必要があります。また、保護者同士をつなげる、地域の中での協力体制を整えていくことも必要です。そのためにも、現在実施している社会教育での取組を地域住民により知ってもらえるよう、工夫する必要があると考えます。

最後に、本市の「子供を育てる」ことは、将来を担う人材を育成することにつながるということをより意識して取り組んでいく必要があると考えます。本市の取組の中でも中学生が地域行事や公民館講座でボランティアとして活躍していることがわかりました。この中学生が、将来、地域のために自分に何ができるかを考え活躍してくれるのではないかと期待するところです。



<地域で子供を育てるために必要な3つの工夫>

1. 魅力ある場を設定できるよう工夫する
2. 地域と家庭をつなげるよう工夫する
3. 人材育成を意識した取組となるよう工夫する



これからも、地域と学校が「育てたい子供像」を共有し、「場の設定」、「地域と家庭とのつながり」、「人材育成」という3つを意識して、様々な取組に反映させてほしいと考えます。本市の社会教育がより充実したものとなり、将来を明るく照らしてくれるような取組になっていくことを願います。